



みらいっつうしん

8月号

2019年7月19日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦芳子

☆暑さに負けず熱中力を身につけよう☆

曇り空が続き、なかなか太陽の日差しに恵まれない中でも、園庭の夏野菜は、すくすくと成長して、子ども達に「ファイト!!」と話しかけているようです。

7月には、「七夕コンサート」「なつまつり」と楽しい行事がありましたが、子ども達は、悪天候の中でも元気いっぱい参加し、それぞれの楽しみ方で、体験活動を満喫していました。1号認定のお子さんは、1学期の終業式を無事迎え、しばらくの間お休みに入りますが、園生活で学んだ習慣を忘れないよう規則正しい生活に心掛け楽しい夏休みを過ごしてください。2・3号認定のお子さんは、引き続き園生活が続きますが、お休みが取れたら、家族でゆっくり過ごすことも大切ですので、有意義なお休みの活用を心掛けてください。これから、連日連夜猛暑日が予想されます。体調に気を付けて夏を乗り越えて行きましょう。また、夏は、危険がいっぱい潜んでいます。熱中症、交通事故、水の事故、食中毒、迷子など、ちょっとした油断から大きな惨事が起きてしまいます。家族皆さんで、細心の注意を払っていただくようお願いいたします。

さて、先日の七夕コンサートで演奏してくれたメンバーの中には、私が、3歳から5歳までの3年間担任をした教え子がいました。卒園後もご縁があり、今回演奏を快く引き受けてくれました。彼は、幼少のころは、とてもおとなしいお子さんでしたが、音楽には、大変興味を持ち、「大きくなったら、トランペット演奏者になりたい!!」とずっと思い続け、洗足学園音楽大学に入学し、大学院まで進み、修士課程まで習得しました。専攻はトロンボーンという楽器に転向はしましたが、今は、中高で教育に携わりながら、各地でプロの演奏家として活躍しています。本人曰く、「好きなものが見つかったら、まずは、熱中し、やり続けることが夢を叶える第一歩だと思います。だから、子ども達のやりたい事を温かく見守ってあげてください」と、幼少の頃のように目を輝かせながら話してくれました。

人が熱中している時は、普段とは全く違うパワーや熱中力がでて、すごい成果を手にすることがあります。子どもは、特に熱中体験によって、「好奇心×集中力＝熱中力」が養われ、様々なことを習得していきます。発達心理学的によっても実証されていて、人間の赤ちゃんは、生まれながらにして、知的好奇心に溢れ、自分から積極的に外の世界を探索し、情報を取り込みます。子どもが成長すること、それは、強い興味や熱中につながっていきます。新しくできるようになった自分の力を使って試し、発見し、喜びを感じ、それが次の活動へと展開していきます。つまり、何かに熱中することは、子どもが学び、育つことそのものなのです。子ども達も、この夏、いろいろな体験を通して、熱中するものが見つかり、大いに好奇心、探求心をもって生活して欲しいと心から願います。



「アコードブラスアンサンブル」の方が、こっそり“ありがとう”のメッセージを書いてくださり、翌朝、登園してきた子ども達が「なんだろう?」とみています。

